

令和7年度静岡県立東部特別支援学校伊東分校

第4回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和8年2月4日(水) 午前10時～12時

2 場 所 静岡県立東部特別支援学校伊東分校

(〒412-0055 伊東市岡 1270-1)

3 出席者

<運営協議会員> 福西 正美 氏(伊東市立さくら園園長) 【コーディネーター】
日吉 由季 氏(伊東市立伊東小学校PTA)
安藤 健雄 氏(湯の花共栄会役員)
初鹿野 勲 氏(第4地区会長) 【欠席】
佐々木 剛 氏(元特別支援学校教員)
利田 亜弥 氏(東部特別支援学校伊東分校PTA会長)

<学 校> 佐々木 雅則(校長)
板垣 久(副校長)
神戸 正輝(小学部主事)
内田 香津子(中学部主事)

【日 程】

日程確認

- | | | |
|---|---|-------------|
| 1 | 校長挨拶 | 10:00 |
| | 校内参観 | 10:10～10:50 |
| 2 | 令和7年度の伊東分校の学校経営計画と教職員評価について
および学校運営協議会員による学校評価について | 11:00～11:30 |
| | (1) 令和7年度の学校経営について | (副校長) |
| | (2) 令和7年度の学部経営について | (小・中部主事) |
| 3 | 質疑応答 | 11:30～12:00 |
| 4 | コンプライアンス委員会
閉会 | 12:00 |
-

5 議事内容

(1) 授業参観

国語・算数・自立活動の時間を参観していただいた。

《授業参観後の感想》

(安藤様) どの教室も明るく、楽しい雰囲気がして良かった。

(日吉様) 今回、学校運営協議員として4回、学校の様子を知る機会があった良かった。子供たちの成長の変化に気づくことができ、親しみを持つことができた。授業の様子は離席もなく、みんな落ち着いていた。

(佐々木様) 子ども達の成長が見られてよかった。みんな大きく成長している。授業では、タブレット端末など使用していて、工夫された授業だった。板書などもわかりやすかった。また掲示物も見やすいように掲示されていた。

(福西様) 小学部1・2年生は、ちゃんとみんな座って話を聞いていて良かった。先生方の伝え方に工夫があり、1年通して「話を聞く」経験を積んだと思った。

(2) 令和7年度の伊東分校の学校経営計画と教職員評価について および学校運営協議会員による学校評価について

はじめに、副校長より本年度の取組について説明を行った。

<守る>安全に配慮され、のびのびと安心して学べる学習環境を整備する

(板垣) 危険個所を予防的に把握するために、教師が二人一組となって安全点検を行った。今年度は児童生徒に危険を及ぼすような事案は発生しなかった。避難訓練は年間6回行った。発災時に取らなければならない対応について、教員が理解することができた。人権研修を学期1回行っている。人権教育年間計画に則り、教職員が子どもたちの人権を尊重できている。

<育む>高い専門性にに基づき、自己実現に向け、個に応じた指導・支援を展開する

(板垣) 経年研修などを通して、授業づくりに取り組んでいる。各学部年間2回は研究授業に取り組み、児童のアセスメントの取り方や、指導方法について研鑽を積んでいる。情報機器の活用にも取り組んでいる。キャリアパスポートを全員作成している。子どもたちの夢や希望に寄り添うためにも、普段から活用できるようにしていきたい。

<つなぐ>「地域の中で育つ児童生徒、地域の中で役割を果たす学校」を目指す

(板垣) 伊東小学校、北中学校と学校間交流を行った。年間通して、各学年直接交流を行うことができた。今後も継続して「共生・共育」を推進していきたい。併せて地域との交流も図ることができた。伊東分校単独校となり、新しい岡地区での教育活動を模索していきたい。今年度は、地域の方対象とした学校見学会を2回行うことができた。

＜高める＞教職員が互いに支えあい高めあい、仕事を通じて自己実現できる環境を作る

(板垣) 不祥事根絶研修は、「不祥事の研修」にならないように配慮しながら行った。不祥事をチームで根絶するためには、何でも言い合える職場環境が大切だと思い、対話型の研修を行った。日々何でも言い合える職場環境の醸成を図っていきたい。

職員会議などの会議時間は60分を厳守したところ、自分の時間を持ちやすくなり、教職員一人一人が計画的に業務に取り組むことができた。

《各学部より報告》

(小学部主事 神戸)

学校周辺活動、多様な人材やボランティアの活用を年間活動に位置づけ、学びの場を広げると共に、学校生活の紹介を通して本校児童を知ってもらうことを重点において活動した。

伊東小学校と直接交流(各学年 年1回以上)や間接交流(作品交流、情報機器を用いたオンラインなど)を通して、本校児童の生活体験や人間関係の拡大を図ること、2点を今年度目標に教育活動を行ってきた。

学校周辺活動としては、マックスバリュなどへの買い物学習、図書館やよねかわの足湯などの地域散策など、各学年で学校周辺の地域に出て行く活動を積極的におこなってきた。昨年度に引き続き、多様な人材・ボランティアの活用をして年間を通じて読み聞かせを実施していただいた。

今後の課題として、活動後の事後学習を充実していきたい。

(中学部主事 内田)

伊東市立北中学校との学校間交流では、今年度よりお互いに種を植え、苗を育てて良い状態になったら交換して育てるというプランター交換を実施した。

5月の学校紹介から11月の実施まで、期間があり、何かお互いを意識できないだろうかと考えられた交流である。次年度も継続していきたい。

直接交流は、1か月の間に2回実施した。1回目は清掃交流を行った。初めて会う友達に北中の生徒も緊張していたので、分校の教員が中心となり自己紹介や支援の方法、できる事などをその場で伝えながら一緒に活動した。少しずつ北中の生徒が慣れると、名前を呼んで一緒に活動する姿を見ることができた。

その2週間後にレクリエーション交流を行った。レクリエーション交流の内容や進行は北中の1年生にお願いした。北中の生徒同士、伊東分校の生徒と声を掛け合ってボッチャとフルーツバスケットを一緒に行うことができた。交流を終え、伊東分校の生徒教員からは「初めての人と活動ができた。」「自分から声を掛けられた。」「〇〇が楽しかった。」「〇〇さんと一緒にやった。」という声が聞かれました。

今後も、同年代との交流、地域で育つ同じ仲間との出会いを大切に交流を続けていきたい。

《学校運営協議員より》

- (安藤様) 中学部と北中が行っているプランター交流はとても良いと思った。湯の花商店街も街路に花を飾っている。七夕交流、ビーズ班看板交流だけでなく、花を飾る交流などできたらよいと思った。
- (佐々木様) 学校間交流や地域交流が充実してきてとても良いと感じた。その反面、1つの交流を行うと1つの準備が増えてくると思う。先生方の業務負担にならないように配慮する必要がある。何でもかんでも先生方がやるのではなく、地域の人に助けてもらうのも、一つの方法だと思う。
- (利田様) どの教室も温かい雰囲気にもまれており、子ども達と先生方の信頼関係がよく伝わってきた。授業の内容もICTを活用したものもあり、時代に即したものであると感じた。
- (日吉様) 食品環境の表彰や、歯のポスターコンクール表彰など、「みんなに認められている」ことは良いことだと思う。周りからの評価を、今後の活動への意欲にしていって欲しい。

《コンプライアンス委員会》

- (板垣) 今年度、体罰などの不適切な指導案件はなかった。交通事犯などの不祥事もなかった。今後もチームとして、不祥事を起こさない職場環境を作っていきたい。

- (3) 来年度の学校運営協議会員の選出についてお願いをして、閉会とした。